



(様式第1号)

平成 28 月 5 月 25 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : ③リハビリテーションに関する領域

科 目 名 : ③-2 生活支援のためのリハビリテーションの知識

単 位 数 : 1 単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人長野県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 380-0928

長野県長野市若里 7-1-7

電話 : 026-223-6670

FAX : 026-223-6679

E-mail : sakai@kaigo-nagano.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (公社) 長野県介護福祉士会
会長 畠山仁美 (印)

申請責任者 : 酒井 良育



記

○認定介護福祉士認定研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援することができるようにする 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念と ICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハの視点を持つことができる ・関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる ・病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる ・心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。 ・リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができる 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○リハビリテーションの理念 ○心身の評価とアプローチ ○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係 ○運動学的視点を生活支援に活かす考え方 ○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点 ○心理的な理解を生活支援に活かす考え方 ○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識 	<p>○事前課題①（4時間）</p> <p>事前に配付されるリハビリテーション概論の資料をよく読み、リハビリテーションの理念を自己学習しておく。</p> <p>この課題によって、生活支援の中におけるリハビリテーションについてディスカッションできるように、リハビリテーションの全体像を概観しておく。</p> <p>○事前課題②（4時間）</p> <p>1980年にWHOによって作られた国際障害分類（ICIDH）は、2001年に国際生活機能分類（ICF）に改定された。(1) ICFの目的、(2) 改定された理由、(3) 改定後の特徴について、文献またはインターネット資料などから調べ、1,200字程度にまとめる。</p> <p>この課題によって、肯定的側面と否定的側面の中で障害を構造分析するという視点で問題点を捉え、ICIDHとICFの共通点、相違点の理解につなげる。</p> <p>○リハビリテーションの理念（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>リハビリテーションの理念とICFの考え方を理解し、生活リハの視点を学ぶ。</p> <p>○心身の評価とアプローチ（1時間）</p> <p>【講義】</p> <p>疾病と障害の評価方法を学び、リハビリテーションにおける各種介入方法を理解する。</p> <p>○日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係（2時間）</p> <p>【講義・演習】</p>

③-2 生活支援のためのリハビリテーションの知識

	<p>主な ADL 動作を確認し、その中から幾つかの動作をとりあげて動作分析の演習を行い、観察すべきポイントを学習する。</p> <p>○運動学的視点を生活支援に活かす考え方(2時間) 【講義・演習】</p> <p>安全で効率の良い介助方法について実例を説明した後に、現場でどのように活かすことができるか、ディスカッションする。</p> <p>○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点(2時間) 【講義】</p> <p>疾患や障害によってできなくなった動作を補うという介護支援で終わらせず、残存機能や潜在能力を引き出す介護を生活支援に取り入れる視点を学ぶ。</p> <p>○心理的な理解を生活支援に活かす考え方(2時間) 【講義】</p> <p>身体的な反応は心理的な影響を強く受けている。心と身体は別々なものではなく、互いに関連し合っていることを理解し、生活支援に応用する方法を学ぶ。</p> <p>○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識(2時間) 【講義・演習】</p> <p>介護知識や介護技術の専門性を、リハ関連職種との連携・協働に役立てることはチームで活動する現場では必須である。利用者中心の他職種連携に必要な視点について議論し、考え方を共有する。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前課題として、①資料を読み自己学習、②レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
<p>研修時間</p>	<p>20 時間（集合研修 12 時間、課題学習 8 時間）</p>
<p>修了要件</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分（遅刻、早退それぞれ 15 分）を上限として認める。（レポート課題なし）<u>1 日のプログラムのうち、始めの 30 分を超える遅刻、終わりの 30 分を超える早退であって 120 分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120 分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。30 分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題を提出すること。</u></p> <p>○修了評価として行う筆記試験（50 問程度）において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければ「自立に向けた生活をするための支援の実践」科目は受講できない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○実技試験において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければ「自立に向けた生活をするための支援の実践」科目は受講できない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
<p>講師要件（講師の選定基準）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験

③-2 生活支援のためのリハビリテーションの知識

	がある者
(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。
修了評価	筆記試験（50問程度）により行い、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）で修了とする。 実技試験（10問程度から2問選択する）により行い、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）で修了とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名（講師1名）演習時も同じ講師で行う
開催場所（都道府県）	JA長野県ビル(長野県長野市)

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 29 年 3 月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 長野県長野市 JA 長野県ビル
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当する講義等 生活支援のための運動学 修了評価
	山本 良彦 氏 理学療法士 【職歴】 平成 2 年 信州大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業 平成 2 年 リハビリテーションセンター鹿教湯病院 (介護福祉士 46 名、介護支援専門員 15 名、看護助手 57 名 <u>と働く</u>) 平成 5 年 稲荷山医療福祉センター 平成 12 年 長野医療技術専門学校 平成 27 年 長野保健医療大学助教 【社会活動】 (公社) 日本理学療法士協会、代議員 (一社) 長野県理学療法士会、副会長・理事 聖徳大学大学院児童学研究科児童学専攻博士前期課程在籍 【著書】 「ダウン症リハビリテーションガイド」、診断と治療社、2013 「五十肩のリハビリテーションー病期に合わせた適切な運動療法ー」、診断と治療社、2015 【研修履歴】 平成 13 年 7 月 20 日、29 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「施設でリハビリをどのように取り入れるか」 主催：長峰学園 (現、常岩の里ながみね) (飯山市) 平成 14 年 1 月 20 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「日常生活の中でのリハビリテーション」 主催：長峰学園 (飯山市) 平成 14 年 5 月 19 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「介護職員の腰痛」 主催：長峰学園 (飯山市)

③-2 生活支援のためのリハビリテーションの知識

	<p>平成 14 年 11 月 24 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「入所者に対するストレッチ、筋力強化」 主催：長峰学園（飯山市）</p> <p>平成 15 年 9 月 20 日 看護・介護職のための呼吸勉強会 テーマ「呼吸理学療法」 主催：栗田病院（長野市）</p> <p>平成 17 年 1 月 18 日、2 月 15 日 ケアマネージャーの集い テーマ「呼吸器リハビリテーション」 主催：指定居宅介護支援事業所近藤鍼灸治療院</p> <p>平成 17 年 11 月 6 日 施設内研修会 テーマ「施設におけるリハビリテーション」 主催：特別養護老人ホーム長寿荘（長野市）</p> <p>平成 18 年 3 月 13 日、7 月 10 日 施設内講習会 テーマ「呼吸と嚥下について」 主催：特別養護老人ホーム松寿荘（長野市）</p> <p>平成 18 年 7 月 31 日 施設内研修会 テーマ「拘縮予防」 主催：特別養護老人ホーム杏寿荘（千曲市）</p>
	<p>担当する講義等 山本 良彦 氏（理学療法士） 履歴等は同上</p>
(3) 実施体制	
<p>研修の企画運営の組織 （担当部局・人員）</p>	<p>研修委員会（非常勤：17 名） 事務局（担当事務局員、常勤：4 名） 研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 また、できる限り研修委員会の委員が研修を見学し、研修内容を評価するとともに、随時、研修の見直しを図る。</p>
<p>研修の企画運営に関する諸 規程</p>	<p>研修委員会設置要綱</p>
<p>研修管理責任者職名</p>	<p>副会長</p>
<p>研修管理責任者氏名</p>	<p>原千香子</p>
<p>機構問合先部署</p>	<p>長野県介護福祉士会事務局</p>
<p>機構問合先担当者氏名</p>	<p>酒井良育</p>
<p>機構問合先電話番号/FAX</p>	<p>026-223-6670 FAX 026-223-6679</p>
<p>機構問合先 e-mail アドレス</p>	<p>sakai@kaigo-nagano.jp</p>
<p>受講問合先部署</p>	<p>長野県介護福祉士会事務局</p>
<p>受講問合先担当者氏名</p>	<p>酒井良育</p>
<p>受講問合先電話番号/FAX</p>	<p>026-223-6670 FAX 026-223-6679</p>
<p>受講問合先 e-mail アドレス</p>	<p>sakai@kaigo-nagano.jp</p>
(4) 研修履歴の管理体制	
<p>受講者への付与単位部門</p>	<p>長野県介護福祉士会事務局</p>
<p>受講履歴の管理方法</p>	<p>○紙媒体及びデータによる台帳管理</p>

③-2 生活支援のためのリハビリテーションの知識

	<ul style="list-style-type: none"> ○外付けディスクにバックアップデータを保管する。 ○データ保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 ○個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、会長名による修了証書を発行する。
管理責任者氏名	土屋一都(事務局長)
管理担当者氏名	酒井良育(担当の常勤職員)